

～ 東 通 原 子 力 発 電 所 の 今 年 1 年 を 振 り 返 る ～

東通原子力発電所では、新規制基準への適合にとどまらず、さらなる安全レベルの向上に向けた取り組みを、ハード・ソフト（設備・人）の両面から鋭意進めています。

今回は、当発電所における今年1年間の主な取り組みについてご紹介します。

3
月

敷地内断層の調査に関する有識者会合が原子力規制委員会に評価書を提出

原子力規制委員会の「東通原子力発電所敷地内破碎帯調査に関する有識者会合」は、当発電所の敷地内断層の活動性について評価書を取りまとめ、原子力規制委員会に提出しました。

評価書では、一部の主要断層の活動性について、「将来活動する可能性のある断層等に該当する」と断定していますが、具体的な根拠は示されず、当社としては総合的な観点から十分に評価した内容とは言い難いと考えています。

敷地内断層の活動性については、新規制基準に係る適合性審査において、調査データ等を踏まえた総合的かつ合理的な評価をいただけるよう、説明を尽くしてまいります。

6
月

新規制基準への適合に向け工程を見直し

新規制基準に係る適合性審査が先行している発電所の動向を踏まえ、非常用ディーゼル発電機の燃料を貯蔵する軽油タンクを新たに地下に設置する工事や、発電所内部の火災防護対策などの安全対策工事を実施することとしました。

こうした工事量の増加を踏まえ、工事完了時期を平成29年4月とし、工事が完了する平成29年4月以降、地域の皆さまからのご理解を得ながら、準備が整った段階での再稼働を目指してまいります。



7
月

排気筒の耐震工事を実施

各建屋内の排気を行うために設置している排気筒について、耐震性を高めることを目的に、排気筒と支持鉄塔を接続する制震装置を、既存の「弾塑性ダンパー（鋼製）」から「オイルダンパー」に取り替える工事を実施しました。



8
月

よさこい鳴子踊りを披露

東通原子力発電所のよさこい鳴子踊り愛好会総勢42名は、「ひがしどおり来さまいフェスタ2015よさこい下北」でよさこい鳴子踊りを披露しました。

当日は、東通の夏を盛り上げようと6月から練習に励んできた成果を存分に発揮しました。



9
月

緊急被ばく医療訓練を実施

発電所管理区域内で被ばくを伴う傷病者が発生した場合を想定した緊急被ばく医療訓練を実施し、社内外への通報・連絡や発電所内での傷病者の除染・応急処置など、緊急時における対応の実効性を確認しました。



社内外への通報・連絡



「除染室」での汚染検査

10
月

青森県原子力防災訓練に参加

青森県や関係自治体が実施する「青森県原子力防災訓練」に参加し、原子力災害時における対応力の向上を図りました。当発電所内では、対策本部の設置・運営や大容量電源装置による電源確保などの総合的な訓練を実施しました。



対策本部運営訓練



電源確保訓練



傷病者搬送訓練

敷地内断層の補足調査を開始

新規制基準に係る適合性審査における今後の説明性の向上を図るため、10月10日より敷地内断層の補足調査を実施しています。

調査期間は2カ月程度を予定し、調査結果は今後の審査会合で説明していくこととしています。



ボーリング調査

11
月

淡水貯水槽の設置工事を実施中

重大事故等の収束に必要な冷却水を確実に確保するため、淡水貯水槽を設置する工事を平成26年6月より実施しています。

11月には淡水貯水槽の本体工事がほぼ終了し、平成29年4月の完成に向け計画どおりに工事を進めています。



東通原子力発電所は、地域の皆さまの安心につながるよう、高いレベルでの安全確保に向け、対策に万全を期してまいります。